



本資料は、米国アッヴィ社が2025年10月31日(米国時間)に発表したプレスリリースを一部、日本語に翻訳し、2025年11月7日(日本時間)、皆さまのご参考として供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。本資料(英文)については、www.abbvie.comをご覧ください。なお本文中には日本未承認薬、未承認適応症に関する情報が含まれています。

PRESS RELEASE

2025年11月7日

アッヴィ、2025年第3四半期の業績を発表

- 第3四半期の希薄化後1株当たり利益(EPS)はGAAPベースで、88.6%減の0.10ドルでした。調整後希薄化後EPSは38.0%減の1.86ドルでした。これらには仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した1株当たり1.50ドルのマイナスの影響が含まれます。
- 第3四半期の売上高は、報告ベースで9.1%増、営業ベースで8.4%増の157億7,600万ドルでした。
- イミュノロジー(免疫)領域の第3四半期の売上高は、報告ベースで11.9%増、営業ベースで11.2%増の78億8,500万ドルでした。スキリージ®の売上高は、47億800万ドルでした。リンヴォック®の売上高は、21億8,400万ドルでした。ヒュミラ®の売上高は、9億9,300万ドルでした。
- ニューロサイエンス(精神・神経疾患)領域の第3四半期の売上高は、報告ベースで20.2%増、営業ベースで19.6%増の28億4,100万ドルでした。Vraylar(日本では未承認・未発売)の売上高は、9億3,400万ドルでした。ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社による承認承継・販売)の売上高は、9億8,500万ドルでした。UbrovelvyおよびQulipta(日本では未承認・未発売)の売上高は合わせて、6億4,200万ドルでした。
- オンコロジー(がん)領域の第3四半期の売上高は、報告ベースで0.3%減、営業ベースで1.3%減の16億8,200万ドルでした。イムブルビカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社による承認・販売)の売上高は、7億600万ドルでした。ベネクレクスタ®の売上高は、7億2,600万ドルでした。Elahere(日本では未承認・未発売)の売上高は、1億7,000万ドルでした。
- エステティックス(美容医療)領域の第3四半期の売上高は、報告ベースで3.7%減、営業ベースで4.2%減の11億9,300万ドルでした。ボトックス・コスメティックの売上高は、6億3,700万ドルでした。ジュビダームの売上高は、2億5,300万ドルでした。
- 2025年度における調整後希薄化後EPSのガイダンスを、10.38ドル-10.58ドルから10.61ドル-10.65ドルに引き上げます。これには、2025年第3四半期までに発生する仕掛研究開発費およびマイルストーン支払による1株当たり2.05ドルのマイナスの影響が含まれます。
- 2026年2月の配当より、5.5%の増配を実施することを発表します。

米国イリノイ州ノースシカゴ、2025年10月31日—アッヴィ(NYSE: ABBV)は、2025年第3四半期(2025年9月30日終了)の業績を発表しました。

アッヴィの会長兼CEOのロバート・A・マイケルは、次のように述べています。「今期も主要なポートフォリオが牽引し好業績を収めることができました。また、パイプラインの進展やイノベーションへの



投資も長期的な成長を支えています。好調なビジネスと有望な見通しにより、四半期の現金配当を再度、増額します」

2025年第3四半期の業績

- 売上高は、報告ベースで9.1%増、営業ベースで8.4%増の157億7,600万ドルでした。
- イミュノロジー(免疫)領域の売上高は、報告ベースで11.9%増、営業ベースで11.2%増の78億8,500万ドルでした。
 - スキリージ®の売上高は、報告ベースで46.8%増、営業ベースで46.0%増の47億800万ドルでした。
 - リンヴォック®の売上高は、報告ベースで35.3%増、営業ベースで34.1%増の21億8,400万ドルでした。
 - ヒュミラ®の売上高は、報告ベースで55.4%減、営業ベースで55.7%減の9億9,300万ドルでした。
- ニューロサイエンス(精神・神経疾患)領域の売上高は、報告ベースで20.2%増、営業ベースで19.6%増の28億4,100万ドルでした。
 - Vraylar(日本で未承認・未発売)の売上高は、6.7%増の9億3,400万ドルでした。
 - ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社による承認承継・販売)の売上高は、報告ベースで16.1%増、営業ベースで15.8%増の9億8,500万ドルでした。
 - Ubrelvy(日本で未承認・未発売)の売上高は、31.5%増の3億5,400万ドルでした。
 - Qulipta(日本で未承認・未発売)の売上高は、報告ベースで64.1%増、営業ベースで63.1%増の2億8,800万ドルでした。
- オンコロジー(がん)領域の売上高は、報告ベースで0.3%減、営業ベースで1.3%減の16億8,200万ドルでした。
 - イムブルビカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社による承認・販売)の売上高は14.8%減の7億600万ドルでした。
 - ベネクレクスタ®の売上高は、報告ベースで7.1%増、営業ベースで4.9%増の7億2,600万ドルでした。
 - Elahere(日本では未承認・未発売)の売上高は、報告ベースで23.3%増、営業ベースで22.4%増の1億7,000万ドルでした。
- エステティクス(美容医療)領域の売上高は、報告ベースで3.7%減、営業ベースで4.2%減の11億9,300万ドルでした。
 - ボトックス・コスメティックの売上高は、報告ベースで4.9%減、営業ベースで5.4%減の、6億3,700万ドルでした。
 - ジュビダームの売上高は、報告ベースで2.2%減、営業ベースで3.2%減の2億5,300万ドルでした。
- GAAPベースで、売上総利益率は66.4%でした。調整後売上総利益率は83.9%でした。
- GAAPベースで、売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、22.6%でした。調整後の売上高に占める販売費および一般管理費の割合は21.6%でした。
- GAAPベースで、売上高に占める研究開発費の割合は、14.7%でした。調整後の研究開発費の売上高に占める割合は、14.3%でした。



- 取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払の売上高に占める割合は 17.0% でした。
- GAAP ベースで、営業利益率は 12.1% でした。調整後営業利益率は 30.9% でした。
- 純支払利息は 6 億 6,700 万ドルでした。
- GAAP ベースで、税率は 73.7% でした。調整後の税率は 24.5% でした。
- GAAP ベースの希薄化後 EPS は 0.10 ドルでした。特定項目を除く調整後希薄化後 EPS は、1.86 ドルでした。これらには、取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した 1 株当たり 1.50 ドルのマイナスの影響が含まれます。

注意: 「営業ベース(Operational)」の対比は、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。

詳細な情報はこちらをご覧ください(英文オリジナル)。

<https://news.abbvie.com/2025-10-31-AbbVie-Reports-Third-Quarter-2025-Financial-Results>

アッヴィについて

アッヴィのミッションは現在の深刻な健康課題を解決する革新的な医薬品の創製とソリューションの提供、そして未来に向けて医療上の困難な課題に挑むことです。一人ひとりの人生を豊かなものにするため次の主要領域に取り組んでいます。免疫疾患、がん、精神・神経疾患、アイケア、さらに美容医療関連のアラガン・エステティクスポートフォリオの製品・サービスです。アッヴィの詳細については、www.abbvie.com をご覧ください。[LinkedIn](#)、[Facebook](#)、[Instagram](#)、[X\(旧 Twitter\)](#) や [YouTube](#) でも情報を公開しています。

Forward-Looking Statements

Some statements in this news release are, or may be considered, forward-looking statements for purposes of the Private Securities Litigation Reform Act of 1995. The words "believe," "expect," "anticipate," "project" and similar expressions and uses of future or conditional verbs, generally identify forward-looking statements. AbbVie cautions that these forward-looking statements are subject to risks and uncertainties that may cause actual results to differ materially from those expressed or implied in the forward-looking statements. Such risks and uncertainties include, but are not limited to, challenges to intellectual property, competition from other products, difficulties inherent in the research and development process, adverse litigation or government action, changes to laws and regulations applicable to our industry, the impact of global macroeconomic factors, such as economic downturns or uncertainty, international conflict, trade disputes and tariffs, and other uncertainties and risks associated with global business operations. Additional information about the economic, competitive, governmental, technological and other factors that may affect AbbVie's operations is set forth in Item 1A, "Risk Factors," of AbbVie's 2024 Annual Report on Form 10-K, which has been filed with the Securities and Exchange Commission, as updated by its Quarterly Reports on Form 10-Q and in other documents that AbbVie subsequently files with the Securities and Exchange Commission that update, supplement or supersede such information. AbbVie undertakes no obligation, and specifically declines, to release publicly any revisions to forward-looking statements as a result of subsequent events or developments, except as required by law.